

記者レポート

文化生活部 山口 春絵

島根県内の福祉職場で「エルダー」と呼ばれる職員の存在感が増している。新入職員の早期離職を防ぐため、精神的なサポート役として配置する先輩職員のこと。保育現場で効果が認められ、この春からは介護現場でも導入する施設が増えた。若者の定着を促す仕組みとなるか、注目だ。

福祉職場のエルダー制度

「緊張していた時期に声を掛けてもらって、職場に慣れやすくて良かった」。1年目だった昨年、エルダーの支援を受けた介護福祉士田中智大さん(22)が振り返った。

出雲市湖陵町差海の特別養護老人ホーム湖水苑に勤務する田中さん(22)が振り返った。

湖水苑を運営する社会福祉法人壽光会は、県外施設で成果が出ていることを知り、2016年度から独自にエルダーを配置。同年度以降に採用した新入職員の離職はゼロだ。

田中さんは4月から、立場が変わって新人の高瀬雅之さん(20)のエルダーに。「困ったことはある？」

「体調は大丈夫？」。先輩にしてもらったことを思い出しながら、後輩に声を掛ける。高瀬さんは「定期的に話し掛けてくれる。相談できる人が身近にいるのはいい」と心強く感じている。

湖水苑を運営する社会福祉法人壽光会は、県外施設で成果が出ていることを知り、2016年度から独自にエルダーを配置。同年度以降に採用した新入職員の離職はゼロだ。

人材の確保は急務

待機児童解消や超高齢化社会に対応するため、福祉人材の確保は急務だが、16

若者の定着 促せるか

島根 保育施設では9割「効果」



エルダーの田中智大さん(左)は、新人の高瀬雅之さんの話に笑顔で耳を傾ける。出雲市湖陵町差海、特別養護老人ホーム湖水苑

年の県調査によると介護職員の充足率は88・9%、保育士は74・9%で、いずれも3年前の調査に比べて10%近く低下。勤続3年未満で退職する保育士は約4割、介護職員では約6割に

度は21施設が取り組む。18年度はさらに介護分野の10施設でモデル事業が始まった。エルダー制度について保育施設に尋ねた県社協のアンケートでは、9割の施設が「効果あり」と回答。県社協法人支援部の石出高士部長は「エルダーは万能な仕組みではないが、少なくとも新人職員が速やかに職場に適應する上での効果はある」と話す。

勤務中に、2人の保育士が現場を離れて面談するのは、他の保育士には負担になるが、事前にエルダー制度の意義などを職場に周知。山本恵子園長(63)は「2人が気兼ねなく話せるようになった」と話す。制度に対応する中で「新人が楽しく働ける職場であることが大切」との意識を共有できたという。

みんなで共通認識

エルダー導入を機に、新人育成の在り方や職場環境を見つめ直した施設もある。大田市大田町吉永のあゆみ保育園は、16年度から3年連続でエルダーを配置。新人保育士が仕事に慣れない夏までは、新人とエルダーの保育士が別室で面談する時間を週に1、2回設けている。

新人を孤立させない取り組みが、職場全体を変え、可能性を秘めている。